(15) 梅津次郎氏は「拾遺古徳伝絵」九巻が短時日に選述されえたことについて、「既に存在していた法然伝絵を参照したことは、間違いのないところである。私の見るところでは、『法然上人伝法絵』二巻、および今日ふつう『法然上人伝記絵詞』と呼ばれている九巻本絵巻（東京、芝の妙定院に模本を伝える。また琳阿本と呼ばれる）の二本は、その著しいものと思う」と述べ、「拾遺古徳伝絵」が琳阿本の後に成ったと考えておられる（「絵巻物残欠愛惜の譜10　拾遺古徳伝絵」、「日本美術工芸」三二六号　一九六五年、『絵巻物残欠の譜』一九七〇年　所収）。

(16) 註(6)参照。

美術研究所報

美術部・情報資料部所員異動

前美術部第二研究室長関千代は、昭和五十八年四月一日付停年退官。同日付にて前情報資料部写真資料研究室長関口正之が美術部第二研究室長に、前修復技術部第二修復技術室長鶴田武良が情報資料部写真資料研究室長に配置換となった。

「日本美術年鑑」の刊行

美術部第二研究室の編集による「日本美術年鑑」昭和五十六年版（昭和五十五年一月から十二月の間の記事）は、昭和五十八年三月に刊行された。

美術部・情報資料部公開学術講座

第十六回公開学術講座を昭和五十七年十二月四日（土）午後一時三十分～四時三十分、日本経済新聞社小ホールにおいて左記のとおり開催した。

宗達と又兵衛　鈴木廣之
―寛永期の絵画―

近代の画巻　関　千代

図版要項

一　徳川綱誠（つななり）所用　縞麻羽織（原色版）　愛知徳川美術館蔵
正面　左袖

二　同　正面　同

三　同　背面　同
丈一一二・五cm　裄六三cm　袖幅三一・五cm　袖丈五三cm
一―三　神谷榮子「徳川綱誠所用　縞麻羽織について」参照

四　釈迦如来立像　木造　像高一六〇cm　京都清涼寺蔵

五　釈迦如来立像　木造　像高一五七cm　大阪延命寺蔵

六a　釈迦如来立像　木造　像高一三一cm　京都浄福寺蔵

b　釈迦如来立像及び台座墨書銘　木造　像高七八cm・台座高二七cm　奈良国立博物館蔵
四―六　猪川和子「西国の清涼寺式釈迦如来像　上」参照

七　法然上人伝絵　東京妙定院蔵
a　第二巻第2段絵　月輪殿邂逅　b　第三巻第4段絵　閲蔵・善導対面
c　第四巻第3段絵　清水寺説戒　d　第八巻第5段絵　往生
巻子装　紙本淡彩
竪第一巻　三二・〇cm　第二巻　三二・一cm　第三巻　三二・二cm
第四巻　三二・三cm　第五巻　三二・三cm　第六巻　三二・一cm
第七巻　三二・〇cm　第八巻　三二・〇cm　第九巻　三二・三cm
―米倉迪夫「琳阿本法然上人伝絵について」参照

八　羅雪谷筆　蘭竹石図　東京橋本太乙コレクション
紙本墨画　竪一六〇cm　横一〇〇cm

九　胡鉄梅筆　十六羅漢図　同
絖本淡彩　竪一六七cm　横六六・八cm
八・九　鶴田武良「羅雪谷と胡鉄梅」参照